

八戸市地域おこし協力隊活動
状況報告書

八戸市長
熊谷 雄一 殿

隊員氏名 大久保 加名子

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2025年2月分】

1. 実施した活動の概要・状況

ECサイト(ローカルマーケットオンラインショップ)運営・改修作業、ふるさと納税業務(新規返礼品の提案)、八戸えんぶり従事、クリッピング作業、ラジオ出演、SNSによる広報活動を行った。

(主な活動)

【八戸えんぶり従事】

八戸えんぶりに運営スタッフとして参加し、2/17～2/20の期間中は、更上閣で行われた「お庭えんぶり」の受付・案内係に初めて従事したほか、八戸えんぶりに関するSNS発信を行った。

昨年従事した八戸市庁前の「かがり火えんぶり」では、地元客が多い印象で年齢層は20代～80代程までさまざまであった。今年の日中に行われたマチニワでの公演は、ほぼ地元客で50代以上が中心、「お庭えんぶり」では県外からの観光客が多く、年齢層は30代以上、ご家族や団体でいらしている方も目立っており、時間帯だけではなく、公演場所によっての客層の違いを感じることができた。

SNS発信は、時間ごとによる開催予告と現地発信を行った。えんぶりにまつわる内容(由来や歴史などの解説)を加えて発信した投稿は、他と比べ比較的リツイート数が多かった。約800年も続く伝統行事である「八戸えんぶり」では、“目で見て楽しむ”だけではなく、“理解を深め心で楽しむ”ものでもあると思う。舞は組ごとに口伝で継承され続け、2,3歳の小さな子供たちから成長を遂げた大人たちがひとつとなり、田の神を呼び起こす厳かさ、伝統を守り続ける姿や、そこから感じとるストーリーに観た人は心が揺さぶられるのではないだろうか。だからこそ「担い手がどのような思いで継承しているのか」「どのようなストーリーがあるのか」といった、裏側のエピソードを伝えることで、より深い興味を引き出したのではないかと振り返った。

少子高齢化で若い担い手がいなくなっていることは、元来どこでも共通の課題である。次の世代に受け継いでいくためには、いかに若い人を巻き込むかという視点が欠かせない。SNS発信では「有益な情報を届ける」ことは重要であるが、歴史と文化的価値、そして後世に魅力を伝えるための情報発信の在り方を考えさせられた。



かがり火えんぶりの様子



お庭えんぶりの様子

2. 翌月の活動予定

EC サイト運営、ふるさと納税業務(新規返礼品の提案)、SNS 発信、クリッピング作業など